

e-ビーフNEWS 北の牧場から

October 2022

十勝の秋晴れ

ブルッと10℃前後、昼に30℃近くまで上がり半袖で暑い暑い。寒暖の差が20℃と体には厳しく体にこたえますね。今週は氷点下近くまで下がる予報。日の出も5時過ぎ、夕方5時には薄暗くなり、ズシズシと冬の足跡が聞こえてきました。紅葉は真っ盛りと言いたところですが、今年は色合いが悪い。夏の日照時間が短く長雨の影響か、紅葉する前に茶色に落葉しています。

先日は久しぶりに道東・オホーツクの牧場回りにしてきました。牧草地は2番が終了して青々フサフサとなり、デントコーンは刈り取り早く丸坊主刈りになっていました。収量は例年並みから半分と場所によってマチマチ。ばらつきが出ています。また放牧の牛が見かけなかったのが気になりました。帰りに港によりサケの収穫状況を。今年は上がっているようです。例年不漁が続いていたので少し吉報。案の定、港のふ頭には釣り人が、ルアーを振っていました。朝から2本、またふ頭の先では、今取り込もうとして釣り人がバタバタしていました。マイ竿無しに残念。

十勝のデントコーンはこれから、収穫作業が始まります



活動のお知らせ

- 10/13(木) 日本産肉研究会 第30回学術集会 シンポジウム「飼料価格高騰の中、持続可能な食肉生産を考える(案)」 オンライン開催(Zoom)
13:00~17:00 「昨今のわが国の飼料事情からみた畜産政策(仮題)」 関村 静雄 氏 (農林水産省 畜産企画課)
「日本の食肉産業の現状と未来」 甲斐 諭 先生 (中村学園、九州大学名誉教授)
「エコフィードの活用(仮題)」 青山 次郎 氏 (青山商店)
「エコフィードを給与した肉牛肥育(仮題)」 熊谷 元 先生 (京都大学)
「日本産肉研究会が提案する持続可能な牛肉評価基準検討の第一歩(第三弾)」 日本産肉研究会事務局
- 11/10(木) 第12回 北海道肉専用種枝肉共励会 (株)北海道畜産公社 十勝工場
11/10(木) 第19回 資源循環型肉牛生産シンポジウム2022 とかちプラザ2階 視聴覚室
13:00 シンポジウムテーマ「脱炭素社会における畜産を考える」
基調講演「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産(仮)」 北海道大学名誉教授 波多野隆介氏
話題提供1.「脱炭素循環牧場・地域を目指す」① 放牧酪農家 十勝清水町 出田牧場 出田 基子 氏
話題提供2.「脱炭素循環牧場・地域を目指す」②
「再生可能エネルギーを活用したまちづくり」 鹿追町 環境保全センター担当課長 城石 賢一 氏
話題提供3.「農地を守る!カバークロッププロジェクト」(仮) 東都生協商品部 部長補佐 吉澤 正義 氏
話題提供4.「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」
司会 北海道酪農畜産協会 参事 山本 裕介 氏 講評 帯広畜産大学 教授 口田 圭吾 氏

NEWSばか読み

- 厚労省 1-6月出生数が40万人割れ、コロナ婚現象が要因
9/1:ウイルスコントロール
- 低カロリー鶏むね肉唐揚げの売り上げが好調 1割増9/1:低価格
- 農水省 飼料米の助成制度を見直し検討 飼料米専用種優遇
9/1:増産になれば
- 欧州 土壌47%水分不足 世界で相次ぐ災害9/2:気候変動が一段と
- ノベルズ 黒毛和牛の一貫生産で新ブランド「茲」を立ち上げ
9/2:浸透性課題
- 和牛子牛相場下げ続く 飼料高が肥育経営を圧迫9/6:大きく変わる
- 農地保全で粗放管理広がる 蜜源や放牧利用9/7:荒地でなく利用を
- 中国産稲わら 輸入停滞で供給不足懸念9/7:自給自足
- 石川県 ルビーロマン苗木流失 韓国で確認9/8:どんな方法で
- 8月輸入牛肉 前年度比横ばい 売上悪化減少も9/8:流通の変化
- 栃木豚熱 国内最大規模の処分終了56千頭9/10:大きいね
- 神明畜産 国内大手肥育牧場 民事再生法申請9/13:飼料高騰要因
- 政府 酪農対策で1頭7,000円9/14:間に合わないよう

- 農水省 和牛肉保管事業で今年10月終了を来年2月まで延長
9/15:相場は戻るかな
- 円安食品 消費に影響 物価高騰で家計圧迫9/16:实体经济に影響
- 乳牛メーカー 乳製品4-12%値上げに踏み切る9/17:消費停滞とのなごま
- 21年14県で胴割れ米が発生 温暖化現象9/17:作物が影響
- 農水省 水田の畑地化支援事業を複数年で支援9/20:複数年でなかった?
- 政府 配合飼料10-12月t当たり6,750補填9/21:これでは
- コンビニ各社 高級おにぎり相次ぐ導入 手軽さ受ける
9/21:需要はまだある
- 7月配合飼料価格10万円/t最高更新9/21:どうなる
- 日銀 24年ぶりに円買い介入9/23:効果は
- 8月生乳 北海道で前年割れ3年半ぶり生産抑制が効く9/24:反応大きく
- 和牛格付 A5発生がA4を超える 評価の見直し検討
9/26:赤身評価方法の確立
- 米国ジョージ大学 温暖化進行で異種間ウイルス感染が増加傾向
9/26:やはり影響が
- 日本農文学会の参加会員が減少から3割増加 新規就農や有機農家から
9/27:いいね

東京直近NEWS (9/29 Shi-REPORT)

ホルス

相場低迷継続も若干上げ基調に転じる。
神明畜産の影響からか一部ホルスの逼迫情報あり。
さらなるホルスの出回り不足懸念あり産地への買付競争激化か。
販売状況は未だ低調変わらず、ロイン関係の慢性的不足もモモウデ赤身や切落しの引合は弱まる。季節商材のカタロースはやや問合せ増も新規的な対応は厳しいか。一部では、赤身部位の荷余りから販促している業者の情報あり。出回り頭数は少ないが販売状況は悪く部位によっては余剰あり。神明畜産の一件から仔牛相場も大きな影響出ており先々のホルス立ち位置と将来展望も考える時期か。

経産牛

経産牛相場はガリものの低迷横ばい状況。
上々頭数も前年並み維持しており飼料高騰や仔牛価格の暴落等の要因から出回り頭数は維持予測。
販売は10月目前で赤身中心に引合回復してきている模様。
加工原料中心にモモ関係引合あり。
挽き材についても輸入アイテムの高騰もあり一部では国産への切替も進み比較的動きは良い。

1. 畜産技術807号(2022.8)

(1)技術情報:肉用牛の肥育期間短縮のための給与方式(総説)(樋口幹人、農・食産技総研機構、食肉用家畜研)

肉用牛飼養では肉質や枝重を保ちながら肥育期間を短縮して飼料の節減を図ることが肝要です、黒毛和種去勢牛の肥育期間は慣行29か月齢で早期出荷は24-27か月齢とされています。しかし枝肉重量確保が難しく特に肥育前期からCP比率を高める、粗飼料水準を高める、CP・粗飼料両方を高める、濃厚飼料を増給するなどの試験研究がありますがまだ一元的な答えはありません、環境負荷低減や安定的な日本の肉牛生産には重要な課題です。

(2)国内情報:有機牛肉販売の取り組み-コープデリ生活協同組合連合会-(大山利男他、立大)

コープデリ生協連(関東信越,会員519万人)は有機牛肉の販売を2018年から手掛けており、2021年から北十勝ファーム(有機JAS認証取得)傘下の牧場の日本短角牛を委託生産契約して有機JAS認証牛肉の生産販売を取り組んでいます。出荷は27-30か月齢で2023年販売開始の予定です、日本で有機農畜産物の普及を計るには「有機vs慣行」の価格差を超える価値を如何に消費者に理解してもらうかが課題です。

(3)国内情報:和牛肉の仕入れ時に優先した選定基準について-2021年下半期の食肉販売動向より-(農畜産業振興機構、畜産流通課)

食肉小売業者(量販店20、食肉専門店64、計84店)によ

る和牛肉の仕入れ時の選定基準を調査しました。和牛肉の等級別最多取扱割合(重量比)は、量販店では4等級の「モモ、バラ」が56%、食肉専門店では5等級の「リブロース、サーロイン」が46%でした。小売業者は共に「肉質」や「価格」を重視し、量販店はBMSNo.7前後を、5等級取扱の多い専門店では「決め・締めり」重視で、BMSNo.11以上は敬遠気味のようです。

2. 畜産技術808号(2022.9)

(1)技術情報:水田を利用した子実トウモロコシ生産の現状(宮路広武、農・食産技総研機構、東北農研セ)

水田の転作作物として子実トウモロコシが農水省の国産濃厚飼料計画により注目されています。子実トウモロコシには雌穂全体をサイレージ化する「イアコーン」と脱穀して子実のみ利用する生産があります。子実トウモロコシの調製には大豆乾燥施設などを利用した乾燥調整法や破砕機を用いた子実サイレージにする方法がありますが、生産者が独自確保した畜産農家と連携した販路により異なります。子実サイレージの販売価格は産地交付金などを活用すれば\45/kgで可能のようです。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2021

話題提供2.(流通関係)「消費者目線で持続可能な食料生産システムを考える」5回シリーズ⑤回 生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合 商品部統括マネージャー 前田 陽一氏

組合員活動との連携
2019.11.29 改めて、専ら畜産大学の発展を認め、アニマルウェルフェア学習会を開催...
2019.3.32 建設中のAW対応畜舎・繁殖農場(七星食品)の見学会を開催...
2020.11.16 アニマルウェルフェア推進を重点課題とするために、ジャーナリストの枝廣洋子さんから、海外のAW動向で、消費者がとるべき行動について学びました。
2021.6.29 2021年度、アニマルウェルフェア推進を重点課題に位置付け、商品部内にワーキングチームを設置し、畜産生産者への研修機材アンケートを実施...
コープ自然派

カタログ紙面での展開(2021年9月4週でAW全面特集)
「アニマルウェルフェアを学ぶ」
「自然派の恵みを活かした自然派の食生活」
コープ自然派

カタログ紙面での展開(2021年9月4週でAW全面特集)
日本の畜産をリードする自然派の取組
コープ自然派

カタログ紙面での展開(2021年9月4週でAW全面特集)
「自然派の恵みを活かした自然派の食生活」
コープ自然派

カタログ紙面での展開(2021年9月4週でAW全面特集)
「自然派の恵みを活かした自然派の食生活」
コープ自然派

アニマルウェルフェア対応畜産生産者の受注推移
コプ自然派でのアニマルウェルフェア受注は、未確定です。豚肉、鶏肉、牛肉については数枚、鶏卵は平均1.0〜1.5枚/生産者について累計しています。なお、豚肉については七星食品も受注しています。
コープ自然派

アニマルウェルフェアに取組む生産者
七星食品(自然豚)
旭商事(オーガニック卵・平飼い卵)
コープ自然派

アニマルウェルフェアに取組む生産者
イシイフーズ(神山鶏)
北十勝ファーム(短角牛)
コープ自然派

アニマルウェルフェアに取組む生産者
よつ葉乳業(酪農)
コープ自然派

転載・再利用は固くお断りします